

ご近所のみなさん、日本共産党 支部（後援会）です。

政府与党は“少年犯罪やライブドア、耐震偽造事件などがおきたのは、みんな教育基本法に原因がある”などといって、秋の臨時国会で、教育基本法を変えようとしています。

しかし本当にそうでしょうか。日本共産党は、戦前の教育への反省のうえにつくられた現在の教育基本法を、いまこそ生かすときだと考えています。その立場から、教育基本法の改定に反対する署名に取り組んでいます。ご協力、よろしくお願いいたします。

みなさん。政府は教育基本法改定案に、「国を愛する態度」つまり「愛国心」など20項目を、「徳目」として盛り込んでいます。それを学校現場で教育することを義務づけています。

私たち日本共産党は、市民として「道徳」を身に付けることは大切だと考えています。国を愛し、世界の人たちと友好を広げることも、大切な「市民道徳」です。

しかしそれは、法律で義務付けるべきものではありません。愛国心の押し付けは、「天皇のため、お国のために、命をささげよ」と叫んだ、戦前の教育への逆戻りです。それは、憲法が保障する「思想・良心・内心の自由」を踏みにじるものではないでしょうか。

みなさん。いまの教育基本法は、国が教育の中身にまで口出しすることを、厳しく禁止しています。“教育は国のためでなく、国民のために直接、おこなわれるべきだ”とはっきり書いています。

ところが政府・与党は、戦前の軍国主義教育への反省を捨て去り、国がどこまでも、教育の中身に介入できる仕組みをつくらうとしています。

教育に介入して、政府与党がねらっているのは、「全国一斉学力テスト」です。そんなことをすれば、学校間の格差と競争を激しくし、「できる子」と「できない子」、「勝ち組」「負け組」にふるい分けすることになります。こんな教育を許すわけにはいきません。

みなさん。政府与党はなぜ、教育基本法を変えようとしているのでしょうか。

第1に、日本を「アメリカといっしょに戦争する国」にする、第2に、弱肉強食、自己責任が押し付けられる社会で、文句をいわずに従順に働く こうした「人間づくり」が狙いなんです。

教育課程審議会の元会長で、教育基本法改定の中心人物は、このようにしています。“子どもたちを1%のエリートと99%の「その他」に選別する。「その他」はエリートに従うように、「実直な精神」だけ養えばよい” こんな差別と選別の教育を、許すわけにはいきません。

そしてみなさん。民主党が提案した「教育基本法案」も、「愛国心」を盛り込み、国が定める「教育振興計画」で、無制限に介入できるという内容です。これでは政府与党案と、瓜二つではありませんか。

みなさん。いま教育現場には、不登校やいじめ、学級崩壊などの困難が確かにあります。しかしそれは、教育基本法に逆行する教育行政を重ねてきた、自民党政治に原因があるのです。

日本の競争教育、徹底した管理教育は、国連からも異常だと指摘され、是正するように勧告されているほどです。「学力世界一」のフィンランドでは、中学1年まで点数を付ける試験はありません。高校では、先生と生徒の代表が参加して自主的な学校運営がおこなわれています。

みなさん。日本共産党は、子どもたちの成長と、平和・民主主義を大切に思うみんなの力で、教育基本法の改悪をやめさせることを、心から訴えます。